

# ワードプレイ | ワセニ・ウォルケ・コスロフ 一言の葉の戯れー

エチオピアのアーティスト ワセニの世界



このたび、中村キース・ヘリング美術館（山梨県北杜市小淵沢町）では「ワードプレイ | ワセニ・ウォルケ・コスロフ 一言の葉の戯れー」展を開催する運びとなりました。

本展では、当館の開館10周年を記念しエチオピア出身のアーティスト、ワセニ・ウォルケ・コスロフをご紹介します。

言語や音楽を素材とし、文化や宗教を超えて人間の心に深く訴えかける同氏の作品を通してヴィジュアルアートの可能性を探ります。

オープニング・レセプションでは、ワセニ氏による子どもたちとのワークショップ及びアーティスト自らが作品や制作への想いを語るギャラリートアーを行います。

また当日は、第9回中村キース・ヘリング美術館国際児童絵画コンクールの授賞式を併せて開催いたします。

## ◆展覧会概要◆

Wosene Worke Kosrof (ワセニ・ウォルケ・コスロフ)はアフリカ現代美術を代表する画家の一人だ。70年代以降、日本を含む、世界各地の美術館や画廊で数多くの展覧会を開催している。また、ワセニはエチオピアの孤児院や美術館、HIV/エイズ団体、教育機関など多くの団体に寄付を続けている。

ワセニの絵画の特徴は、その鮮やかな色使いとリズムカルな線、そしてエチオピアの主要言語の一つであるアムハラ語の文字を融合させた、抽象的な構成だ。中でもWordPlay と名付けられたシリーズは代表的

な作品である。「ワードプレイ」という通り「ワード＝言葉」にフォーカスしたもののだが、アムハラ語に限らず、あらゆる言語が記号化、あるいは絵画化されており、あたかも音符のように画面に表現される。その背景にはチャーリー・パーカー、マイルス・ディヴィス、エラ・フィッツジェラルドといったジャズ音楽や現代エチオピア音楽などがあるという。一度ワセニの画面に引き込まれると、心の奥に誰もが抱く原風景が無限に広がり、重なる色の音が心に響きわたる。

本展では、未発表の最新作を含め21点を披露する。言語や言葉、音楽、日常を素材とし、文化や宗教を超えて人間の心に深く訴えかけるワセニのアートの世界に触れると同時に、改めてヴィジュアルアートの可能性を探る。



◆ワセニ・ウォルケ・コスロフ（1950年エチオピア出身 カリフォルニア州バークレー在住）

Wosene Worke Kosrof (ワセニ・ウォルケ・コスロフ)はアフリカ現代美術を代表する画家の一人。鮮やかな色使いとリズムカルな線、アフリカの原初的な伝統美術を取り入れた画風で知られている。中でもエチオピアの主要言語の一つであるアムハラ語の文字を融合させた、文様のような文字が散りばめられた抽象的な構成がワセニの芸術を特徴付けている。70年代以降、全米各地、ヨーロッパで数々の美術館や画廊での展覧会を開催。日本でも95年から高知県の画廊で個展を開催している。ワセニの絵画を特徴付けるもう一つに、その色使いがあるが、チャーリー・パーカー、マイルス・ディヴィス、エラ・フィッツジェラルドといったジャズ音楽や現代エチオピア音楽や、自然、風景、食、匂いなど森羅万象が制作の根源となっているという。

◆オープニング・レセプション◆

日 時 | 2017年11月26日 (日)

11:00～ 国際児童絵画コンクール授賞式

14:00～ ワセニ氏によるワークショップ  
16:00～ 「ワードプレイ」展レセプション  
17:00～ ワセニ氏によるギャラリートour

場 所 | 中村キース・ヘリング美術館  
〒408-0044 山梨県北杜市小淵沢町10249-7  
<問い合わせ>  
TEL: 0551-36-8712 pressrelease@keith.jp

---

当プレスリリースURL  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000013.000022359.html>  
中村キース・ヘリング美術館のプレスリリース一覧  
[https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company\\_id/22359](https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/22359)